

会議名	令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明会
開催日時	令和4年6月25日（土）午前10時から11時15分まで
場 所	川島町コミュニティセンター2階大会議室
参加者	19人（傍聴含む）
議 題	(1) 令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校に関する説明 (2) 説明に対する質疑
出席者	教育長 中村正宏 教育総務課長 鈴木克久 学校統合・学校教育指導幹 関口敬氏 学校統合推進室長 坪内嘉夫 事務局職員 柿沼裕美、木村建太
配布資料	資料 令和7年度つばさ南小・つばさ北小の統合による小中一貫教育校
<p>説明会の内容・概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 出席者紹介 4 説明 5 説明に対する質疑 6 閉会 <p>《教育長あいさつ》省略</p> <p>《資料により説明》省略</p>	

《質疑・応答》

質問 現在、つばさ南、北小はスクールバスが運行していますが、統合後はどうなるのか。

回答 基本的に小学生は徒歩、中学生は自転車通学となっています。ただし、現在、小学生については、川島中学校から直線距離で2 kmを超える場合はスクールバスでの通学となっております。統合後のスクールバスの運行については現行の制度も踏まえ検討していきます。

質問 少子化をチャンスと捉えて、小中一貫教育を進めるとありましたが、デメリットはどのようなことを考えているのか。また、デメリットに対する対応策はどのように考えているのか。

回答 小中一貫教育は9年間を見通して教育課程を策定していくため、小学5、6年生段階のリーダー的資質が育ちにくいというデメリットがあります。

その対応策として、運動会などの行事を小学生と中学生を別々にし、小学校5、6年生をリーダーとすることで、リーダー的資質を育てていくという対応策が考えられます。

また、リーダー的資質を早期に育むために、小学4年生を中心とした行事等の計画も検討していきます。

小中一貫教育においては子どもだけでなく、先生も大きく変わります。中学校の専門的な先生が小学校に入ること、よりきめ細かく教育をすることが可能となります。

質問 中学校に小学校低学年棟を増設するとのことですが、遊具とプールはどうなるのか。

回答 遊具については、小学校低学年棟の建設予定地の南側にスペースがあるため、そこに5基程度の遊具の設置を検討しています。

また、中学校にあるプールの水深は、小学生には合わず危険であると考えています。今年度から試行的な取組として、つばさ北小学校の児童がつばさ南小学校に行き、民間のスイミングスクールを活用したプールの授業を合同で実施しています。その成果を踏まえ、統合後も他学校に行き合同でプールの授業を実施することができるか検討していきます。

また、先進校に視察に行ったときは、市内にある民間のスイミングスクールに行き、プールの授業を実施しておりました。民間のスイミングスクールであれば、年間を通して、プールに入ることが可能になるため、併せて検討していきます。

質問 中学生は制服着用になっていますが、どのような対応になるのか。

回答 小中一貫教育にはなりますが、制服は現在と同じものを使用します。また、令和17年度の際は、制服について再度検討する予定です。

質問 校舎の見取り図を見ると、校舎については小学校低学年と中学校とで別れていますが、校舎外のグラウンドについてはどうなるのか。小学校低学年と中学生とでは体格差があり、部活動を実施する場合など危険だと思いますが、対応策はどのように考えているのか。

回答 部活動のグラウンド利用については、野球部は廃部となり陸上部とサッカー部が使用しています。

小学生が危険のないように総合グラウンドの使用を含め、今後対応策を検討します。なお、参考ですが、先進校によると小中一貫教育になりますと高学年の低学年への配慮が育ちやすい傾向があると伺っています。

質問 小学校から中学校に上がる時にギャップがありますが、その中の1つとしていじめがあるかと思えます。小中一貫教育になった場合、いじめの対応はどのような考えがあるのか。

回答 中1ギャップにおいては、いじめや不登校が増える傾向にありますが、先生のギャップもあります。小中一貫教育になることで、中学校の先生が小学校も見ることができると、よりきめ細かく対応ができいじめや不登校も減ることも考えられます。小中一貫教育校開校まで2年半以上あるため、随時検討し報告します。

質問 小中一貫教育校になることで、小学校と中学校の交流が増え児童生徒の学びに効果的な面がある一方で、中学校から小学校低学年への性的ないたずら等が生じる可能性もあるかと思えます。小学生の中学生に対する守り方や周囲に助けを求められる教育についてどのように考えているのか。

回答 上下関係については、行事や学習を通して小学生と中学生が交流を深めることができるようにします。また、小中一貫教育校では小学校と中学校の先生が連携し情報共有を図り、2倍の先生による支援が可能となります。さらに、保健室を2つ整備し養護教諭の配置を充実させるとともに、中学校のさわやか相談室も日常的にあるため、それらを活用して児童生徒の支援をしていきます。

質問 学童は統合後どうなるのか。敷地内に新しくできるのか、現在の学童施設を利用するのか。

回答 小学校低学年棟の整備にあたり、学童施設を同時に整備することは難しい面もありますが、将来、児童生徒の減少に伴い、空き教室を学童施設として利用することもできます。

それまでの間は、スクールバスを利用し、下校時に学童施設で下車していただき、現在の学童施設を利用することも考えられますので、どのような形で学童を整備していくかは検討していきます。

質問 小学校6年間及び中学校3年間の内申書はどうなるのか。

回答 内申書、高校入試等への対応は今までと同様です。また、中学校の定期テストや小学校5、6年生の単元テストについても同様です。

質問 小学校から中学校に進学する際に、ギャップがあるとの説明でしたが、ギャップを乗り越えることも1つの成長であると考えています。中学校から高校に進学する際に、ギャップを乗り越えることができるか心配です。その点については、どのように考えているのか。

回答 子どもたちがギャップを乗り越えることは大事なことでと考えております。また、小中一貫校にあたり、先生のギャップもあるため、小学校や中学校の先生を1つの軸として、児童生徒の支援をしていきたいと思っております。

質問 給食はどうなるのか。

回答 給食をなくすという考えはありません。現在、食材費が高騰していますが、給食の質が落ちないように、交付金を活用するなど検討していきます。

質問 P T Aについて、現時点で決定していることはあるのか。前回の統合も経験していますが、P T Aのルールが学校によって異なり、任意加入であるはずが、全員加入が原則となっていることもあり、見直す必要があるのではないかと。

回答 現行のP T Aの規定では負担が大きく、慣例的な仕事もあるかと思っております。今の段階で決定していることはありませんが、現状において必要なものを精査し見直しを図っていきます。

また、P T Aや後援会等の対応については、今後、P T Aの役員も委員として入っていただき、統合協議会を立ち上げますので、問題点等も含め協議していききたいと思います。

《課長あいさつ》省略

作成者	教育総務課 学校教育グループ 木村 建太
-----	----------------------

